

活動概要(2018年11月)

① 第3サイクル:普及ステップ1(Willingness and Readiness Confirmation:参加意思と準備確認)

1) 普及ステップ1-2: Willingness and Readiness Confirmation Workshop(参加意思と準備確認のためのワークショップ)

■ Salfit Olive Farmers Extension Group(サルフィート県・オリーブ農家グループ)(2018/11/6)

選定された農家グループの参加意思の確認を行うための会議を開催した。県農業局普及員がファシリテーターとなり実施した(活動手順は前月の月報に記載)。

ステータス:EVAP2での普及活動のために新規に形成された農家グループ

参加意思:参加者全員がプロジェクトのコンセプトを理解し、活動参加に同意した。

現時点で農家が認識している問題:i) 販路における諸課題(低価格、低競争力、トレーダーの搾取、等)、ii) 収穫コストが高いこと、iii) 病虫害のまん延(ミバエ等)、iv)

労働力不足(他セクターが高報酬のため)、v) イノシシの被害、vi) 現場作業に係る技術的知見及び簡易・手頃な機器の不足、vii) 収穫期間が不適切、等



2) 普及ステップ1-3: Discussion on Gender Awareness and Consideration(ジェンダーに係る気づきと配慮のためのディスカッション)(2018/11/7)

パレスチナは、地域、民族、宗教ごとに社会環境および慣習が大きく異なり、農家グループごとに個別にジェンダー配慮策を考える必要がある。そのため本活動では、第3サイクル県農業局普及員を対象として、普及地域開発総局(GDoERD)農村開発部のカウンターパート2名がファシリテーターとなり、EVAP2におけるジェンダー配慮の視点について説明を行い、その後、選定された対象農家グループごとのジェンダー配慮策について議論を行った。実施手順は以下のとおりである。



普及ステップ1-3: Discussion on Gender Awareness and Consideration(ジェンダーに係る気づきと配慮のためのディスカッション)の実施手順:

- 1) ジェンダー配慮の必要性: ジェンダーの概念、農業セクターにおける女性の重要性及びジェンダー配慮の必要性
- 2) EVAP-2におけるジェンダー配慮の4つの視点(詳細はプロジェクト事業進捗報告書(第1期)に記載)
 - ・ 視点①: 研修機会・農業インプットへのアクセス改善の視点
 - ・ 視点②: 収益向上に結びつけるための家庭内労働生産性向上の視点
 - ・ 視点③: 家庭内の意思決定への参加促進のための視点
 - ・ 視点④: 地域コミュニティの理解醸成のための視点
- 3) EVAP 普及パッケージ実施におけるジェンダー配慮策の検討
 - ・ 第1、2サイクルにおけるジェンダー配慮事例の紹介
 - ・ 演習: a) 農業セクターにおいて農業収益向上に影響するジェンダーに起因する課題、b) 対象農家グループの社会環境を踏まえてのEVAP 普及パッケージ各ステップでのジェンダー配慮策の協議
- 4) ジェンダー分析ツール及びジェンダー視点を伴う評価手法の紹介: Activity Profile、Daily Activity Calendar、Access to and Control of Resources



演習では、対象農家グループの社会環境および慣習を踏まえ、ジェンダーに起因する課題、課題解決のためのジェンダー配慮策について協議した。県農業局普及員からは、EVAP 普及パッケージの各普及ステップにおけるアイデアが出された(県農業局普及員参加型によるジェンダー配慮策の検討)。対象農家グループが選定された後にジェンダー配慮策を検討するという順番にすることで、社会環境を踏まえたより具体的な農家グループ別の配慮策が議論された。

第3サイクルの県農業局が考えた農家グループ別のジェンダー配慮策のアイデア:

- Salfit Olive Farmer Extension Group(サルフィート県・オリーブ農家グループ)および Kharbatha Musbah Olive Farmer Extension Group(ラマツラ県・オリーブ農家グループ)
 - ・ オリーブ栽培における女性の関与が多いのは収穫プロセスである。ジェンダー配慮策として、女性の労働負担軽減があり、i) 地面に落とした実を効率的に集めるためのシートの使用、2) 実を落したり、葉や枝を取り除くための収穫機・スクリーニング用

器具の導入等が考えられる。普及活動では、収穫時の省力化について考慮しながら活動を進めるとよい。

■ Dier Ballout Women Extension Group(サルフィート県・野菜農家グループ)

- この女性グループのメンバーは非常にアクティブで、野菜栽培におけるほとんどの工程に関与している。また、栽培作物の選択、収入の使い方についても女性が決定権を持っていると聞いている。ただし、市場情報と技術情報へのアクセスが限定されていることが課題である。
- 女性は収穫と家事に多忙なため、販売に時間・労力を割くことができず、トレーダーへの販売と販路が限定されている場合が多い。収穫作業を家庭内で分業することで女性の負担が軽減される と予想される。新規販路の確保ということで、ビジネスマッチングのセッションには対外的な折衝に慣れている男性も参加させる ということも収益向上には効果的であると考えられる。

■ Beit Doqo Grape Farmer Extension Group(エルサレム県・ブドウ農家グループ)

- ブドウ栽培における女性の関与は、販売のための青葉の切り取り、実の収穫、ラマラの市場への販売、余剰物の加工等 である。市場情報と技術情報へのアクセスが限定されていることが課題である。
- 対象グループのメンバーは全て男性であるが、情報アクセスの格差改善の観点から、Market Visit への地域女性の参加、女性を対象とした青葉の切り方・加工等の研修の開催につき、農家グループに確認を取った上で実施すること も効果的と考えられる。実情では、ラマラ市場への販売は長時間を要し、女性の負担になっていることから、その負担を軽減できるような売り先とのビジネスマッチング等の活動を実施するのによいと考えられる。

■ Al-Sawahreh Livestock Extension Group(エルサレム県・畜産農家グループ)および Al Moghuyer Livestock Farmers Extension Group(ラマツラ県・畜産農家グループ)

- 畜産における女性の関与は、小屋の掃除、餌やり、搾乳、乳製品加工 などであり、労働負担は大きいと考えられる。特に技術情報へのアクセスが限定されている。
- 労働負担軽減用の道具の紹介、実際に作業に従事している女性のニーズに基づいた技術研修の実施が考えられる。ニーズ把握のためには、本研修で紹介のあった分析ツールを活用して、i)実際の作業従事者の確認をする、ii)男性メンバーを通して女性メンバーのニーズを確認する、iii)女性から直接ニーズを聴取する(個別のセッション) が考えられる。
- 移動・訪問を伴う活動については、エルサレム県の農家グループはキリスト教徒が多いという宗教上の観点を踏まえて 女性参加を促進する方策(土曜日に開催する等)が考えられる。一方、ラマツラ 県の農家グループはベドウィンの保守的文化・慣習の影響が根強く、女性の参加には特に工夫が必要 である。どのような配慮策が必要か今後検討していく必要がある。

第1～第3サイクルのこれまでの活動におけるジェンダー配慮策の事例は以下のとおりである。これらの配慮策には、県農業局普及員が農家グループごとの社会環境を踏まえて自分達で考えて実践したアイデアも多く含まれている。

第1～第3サイクルのこれまでのプロジェクト活動におけるジェンダー配慮の事例:



男女混合グループのワークショップでは男女別れて座る傾向があるため、ファシリテーターとなる普及員は 場所を移動しながら交互に意見を聞き、双方のニーズを聞き取るよう留意した。(視点①)



子供連れで活動に参加することを遠慮する傾向があったため、EVAP では 子供連れで活動に参加してもよいと告知している。それを知り、オリーブ栽培のスタディーツアーに子供連れで参加した女性農家。(視点①)



静かにぬりえをする子供の後ろで技術研修を集中して聴いている女性農家。子供連れで研修に参加すると子供の世話が集中できない女性農家が多いため、低コストで活動の効果を高めるための配慮の一つ。(視点①)



保守的な地域では別の世帯の男性と同じ車両に乗ることを敬遠する女性がいるため、男女別々に車両を手配し、女性農家が参加しやすいように配慮した。(視点①)



保守的な地域では 女性が卸売市場を訪問することに抵抗があるため、女性農家のニーズに基づき、売り先として農産加工業者や小売店も訪問できるよう配慮した。(視点①)



慣習的に、農作業のうち 育苗は女性が行うことが多いため、女性農家のニーズに基づき、種苗業者訪問のツアーを実施し、健全な幼苗の選定方法について説明を行った。(視点②)



農業散布は男性農家が担当することが多いが、近年増えている男性の出稼ぎ等による不在時にも対応できるようになりたいとの女性農家のニーズに基づき、女性農家を対象に農業散布技術研修を実施した。(視点②)



事前に農家の了解を得たうえでFacebookを通じて女性農家の知識・技術の習得(エンバワメント)を公開し、地域社会におけるジェンダー配慮の有効性の理解醸成を図っている。(視点③④)



スタディツアー訪問先の女性農家と電話番号を交換している女性農家。女性農家同士の農民間普及により、共通の課題を持つ女性農家同士が情報を交換しあえるネットワークを拡大することができる。

② 第2サイクル:普及ステップ6(Extension Activities for Farming Improvement: 営農改善のための技術研修)

市場情報を踏まえて農家グループ自身が策定した技術研修計画に基づき、以下の研修を実施した。

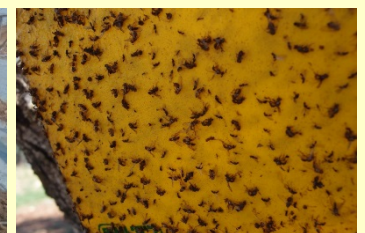
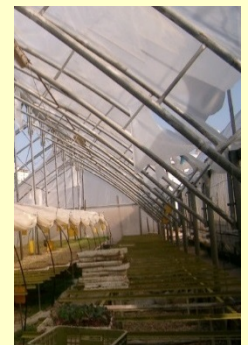
1) グリーンハウスの管理技術研修

■ Qabatiya Farmers Extension Group(ジェニン県・野菜農家グループ)(2018/11/4)

農家の関心が高いトピック(施設設置、圃場準備、施肥、病害虫防除、施設内気象変動の抑制、太陽熱土壤消毒、等)に絞って研修を実施した。残念ながら、講師の普及員は準備された関連パワーポイントを十分活用しなかったため、今後改善が必要である。また、当地域で問題となっている土壤病害や塩類集積に対する対策については、もっと詳しく説明する必要がある。主な質問と回答は、以下のとおりであった。



- **施設設置の注意点は?** : 強風に耐えるよう鉄骨や支柱、継ぎ目等は強い材料を用い固定する。セメント土台は土壤表面下 20cm に設置する。それにより、シートの端を土壤で被覆することができる。
- **健全な生育環境を保つためには?** : 施設上部に通風用窓を設置する。/ 害虫侵入防止のためダブルドアシステム(前室)を施設の外側に設置する。/ 換気、プラスチックシートの洗浄、土壤消毒を行う。
- **圃場準備で大事なポイントは?** : 圃場を均平化する。それにより、水や肥料が均一に施用され、野菜生育のバランスがとれ、結果的に品質、収量が向上する。/ 深く耕うんする。/ 完熟有機物を散布する。/ 畝を立てる。/ 完熟の有機物を堆肥として施用する。/ 過剰な灌水を行わない。
- **太陽熱土壤消毒(Solarization)をしても土壤病害が発生しているがその原因は?** : 灌水後、プラスチックシートで被覆し、太陽熱による高温水蒸気によって殺菌する。そのため、未熟有機物を投入すると、分解熱によって土壤温度がより上がり、殺菌効果が高まる。/ 短期間だと消毒効果が低く、土壤病害の発生につながる。
- **窒素肥料の効果的な施用方法を知りたい。** : 元肥としてのアンモニア多量施用は損失が大きい。1 回の量を少なくし、複数回に分けて施用する。/ 多量施肥は生育を阻害する。植物体の養分吸収容量を超えない範囲で行う。/ 尿素肥料は、低温のために分解しにくい冬季より、高温夏季の方が効果は高い。
- **病害虫防除についてよい方法を知りたい。** : うどんこ病は乾燥時に発病するので、灌水後に農業散布を行う。虫取りシートは害虫捕殺による防除の役目だけでなく、発生予察のモニタリングにも使用できる。



■ Al-Izab Farmer Extension Group(カルキリヤ県・野菜農家グループ)(2018/11/5)

参加した農家は、研修教材のトピックのうちトンネル設置、ホルモン剤処理、灌漑施肥、土壤病害対策に関心が高かった。参加した農家は 太陽熱土壤消毒(Solarization)を実施しているが、土壤伝染性病害は発生しており、その抑制のための接木栽培に特に関心が高かった。なお、研修を通じ、若手の普及員は、豊富な経験を有する農家に対して技術研修を行う前にきちんと事前準備をする必要があることを認識した。農家からの主な質問と回答、コメントは、以下のとおりであった。



- **日本で施設内の二重トンネルにする理由は？**：冬季の保温と低温障害防止、および作物の生育促進のために設置している。
- **在来の保温技術**：冬季露地のキュウリ播種時には、保温のためコーラ等のプラスチックボトルを被せる農家もいる。
- **トマトの裂果を防ぐには？**：変則的な灌水は裂果を生じやすいので、コンスタントな灌水が必要である。
- **効果的な施肥方法は？**：灌漑施肥する場合は、その時間配分を 1/3 灌水、1/3 施肥、1/3 灌水にするとよい。
- **虫取りシートの効果的な設置方法は？**：グリーンハウス内だけでなく、前室にも設置するとよい。
- **太陽熱土壌消毒(Solarization)をしても土壌病害が発生しているが対策は？**：太陽熱による土壌消毒期間は 50-60 日は必要である。それでも土壌病害発生を抑制するには、次の方法として、接木苗は効果がある。
- **土壌病害対策としてどのような接木苗を使えばよいか？**：台木品種はキュウリ用 TZ、トマト用 Beaufort が望ましい。/接木価格は、キュウリ苗 NIS2.0-2.5、トマト苗 NIS3.0-3.5。/接木苗はパレスチナ域内の種苗業者から入手できる。



2) グリーンハウスでのスイカ栽培技術研修

■ Al-Izab Farmer Extension Group(カルキリヤ県・野菜農家グループ)(2018/11/12)

新規の作型としてのグリーンハウスでのスイカの施設栽培の技術研修を実施した。市場調査の結果を踏まえ、その技術によって、競合するイスラエル産の露地スイカの出荷時期を避けることができ、農家の収益向上に繋がることが期待される。



研修トピックは、スイカの特性、接木苗の効果、栽培品種、施設栽培技術、収穫時期の判定、病害虫防除、良質接木苗の特徴などであった。プロジェクトでは、研修に興味のある農家であれば誰でも参加してよいというオープンアクセス方式を採用し、農家グループの同意も得ているため、メンバーではない地域の女性農家も自発的に研修に参加した。農家からの主な質問と回答は、以下のとおりであった。

- **種なしスイカと種ありスイカの栽培方法の違いは？**：種なしスイカ栽培では、受粉させるために花粉用株が別途必要である。種ありスイカは、花粉を有する雄花が同一株にあるので、花粉用株は不要である。
- **スイカの受粉方法は？**：スイカの花は、自家受粉が可能な雌雄同花のトマトとは異なる特性を持つ。スイカは他家受粉作物であり、種ありでも種なしスイカでも受粉には訪花昆虫あるいは人工受粉が必要である。
- **ハウス施設でスイカの受粉に失敗し着果しなかったが理由は？**：スイカ開花時に閉め切ってしまう訪花昆虫が入ってこなかったため。→開花時には、ハウスの両側を開けること、あるいは人工受粉を行うこと。/定植の遅延により受粉が6月~7月の高温期にあたり、訪花昆虫の来訪がなかったため。→定植を早め、高温期の受粉を避けること。
- **ウイルス病発生の原因は？**：ウイルス汚染苗やハウス隙間からの伝搬害虫の侵入が主な原因。/ウイルスが一旦発生すると防除できないので、早急に罹病株を抜き取り焼却する。
- **ウイルス病発生を防ぐには？**：予防的処置および害虫防除が大事である。
- **接木苗を種苗業者に注文する時に注意する点は？**：事前に品種、数量、時期、等を明確に確認し注文する。/受け取り時に苗の品質をよくチェックする。
- **受粉がホルモン散布によるものか、マルハナバチによるものか、の判別方法は？**：受粉後の花に残された痕跡から判断できる。



③ 第3サイクル：普及ステップ2(Awareness Creation Tour:気づきの機会創出のための視察ツアー)

1) 農業局に対するプレトレーニングガイダンス

ラマツラ県農業局(2018/11/13)、サルフィート県農業局(2018/11/14)、エルサレム県農業局(2018/11/18)において、普及ステップ2(Awareness Creation Tour)のファシリテーターとなる普及員に対して、プレトレーニングガイダンスを実施した。第1、第2サイクルでは、日本人専門家が各県農業局に実施手順を説明したが、第3サイクルでは、「普及員から普及員への技術移転」と「ウェブベースのガイドラインの活用」を含む新たな手法で実施した。



普及ステップ 2: Awareness Creation Tour(気づきの機会創出のための視察ツアー)のための農業局に対するプレトレーニングガイダンスの手順:

- 1) 普及ステップ 2 に関するウェブガイドライン(eGuidelines)を整備した。
- 2) 第 1 サイクル対象県から普及ステップ 2 の実施経験を有する普及員を 3 名選定し、第 3 サイクル対象県への手順説明における講師を務めてもらうことにし(各人が1県を担当)、事前に説明を行った。日本人専門家から講師の役割を説明するとともに、eGuidelines を有効に活用しながら第 3 サイクル対象県農業局に実施手順を説明することを確認した。
- 3) 第1サイクル対象県普及員が、日本人専門家とともに第 3 サイクル対象県農業局を訪問し、eGuidelines を活用した普及ステップ 2 の手順を説明するとともに、自らの経験と知見を共有した。eGuidelines から、研修で使うプレゼンテーションや所定のフォーマットをダウンロードできることも説明した。



所感

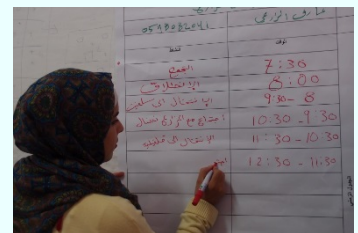
- 1) 第1サイクル対象県の普及員にとって、他県普及員を対象に講師を務めることは、初めての経験であった。一部、説明に苦勞する場面もあったが、実経験にもとづいた経験共有は非常に有効であった。
- 2) eGuidelines は、誰でもアクセスできるため、非常に有益であるとの声が多かった。紙ベースのガイドラインの場合、末端の普及員にまで情報が共有されないことが多い。
- 3) 普及員から普及員に技術移転をした結果として、第 3 サイクル対象県の普及員のモチベーションが高まった。
- 4) Facebook 等で活動の様子を知った第1サイクル対象県の EVAP の活動を経験した普及員から、「自分も講師に任命してほしい」との声が多数寄せられた。

2) 普及ステップ 2-1: Participatory Tour Planning Workshop(視察ツアー計画策定のための参加型ワークショップ)

第 1 サイクル対象県の普及員から直接技術移転を受けた第 3 サイクル農業局が、普及ステップ 2-1: Participatory Tour Planning Workshop を開催した。本活動の目的は、自助努力による市場志向型農業を実践している農家の実例を見せることで、対象農家のプロジェクト活動参加への動機付けを図り、市場志向型農業への行動変容を促すことである。本活動を通じて、「普及員から普及員への技術移転」と「eGuidelines を活用した手法」が有効であることが確認できた。

普及ステップ 2-1: Participatory Tour Planning Workshop(視察ツアー計画策定のための参加型ワークショップ)の実施手順:

- 1) 次の活動で Good Practice Farmer(市場志向型農業を実践している優良農家)を視察することの説明
- 2) Good Practice Farmer のデータベースを活用した事例の紹介
- 3) データベースの中から農家の関心のある Good Practice Farmer をリストアップ
- 4) リストアップされた Good Practice Farmer の紹介シートを活用した事例の詳細説明(必要に応じ eGuideline も活用)
- 5) 農家参加型での Awareness Creation Tour(優良農家の視察ツアー)のスケジュール作成
- 6) 視察先の都合により日程・行程変更となる可能性もあることを周知
- 7) 県農業局普及員による視察先県農業局に対する視察農家への連絡と受入れ準備依頼(ワークショップ後)
- 8) 農業庁普及・地域開発総局長に対する Awareness Creation Tour 実施計画の電子メールでの共有(CC 農業庁普及・地域開発総局普及計画部長、県農業局長および視察先の県農業局普及部長)(ワークショップ後)



■ Salfit Olive Farmer Extension Group(サルフィート県・オリーブ農家グループ)(2018/11/19)

農家によって灌漑の利用状況が異なるため意見が分かれたが、視察ツアーの行き先として、以下に示す優良農家が選定された。また、ジェンダー配慮の観点から、女性農家の参加促進を図るため、男女別々に車両を手配することとなった。

- ・ オリーブの剪定により収益の安定化を図っている農家(ナブルス県)
- ・ オリーブの補助灌漑により収益向上を図っている農家(ナブルス県)
- ・ 農業資材の共同購入によりコスト削減をしている農家グループ(トゥルカレム県)



■ Dier Ballout Women Extension Group(サルフィート県・野菜農家グループ)(2018/11/21)

この女性農家グループは、都市部の市場に出回っていない在来種野菜を栽培しているが、都市部市場へのアクセスを持っていないという課題があるため、直売など販路開拓に関する事例に関心が高かった。視察ツアーの行き先として、

以下に示す優良農家を選定した。

- ・ 野菜の多品目栽培と直売をしている農家(カルキリヤ県)
- ・ 野菜天日乾燥により収益を高めている農家グループ(カルキリヤ県)
- ・ グンデリア栽培により収益を上げている農家グループ(カルキリヤ県)

■ Kharbatha Musbah Olive Farmer Extension Group(ラマツラ県・オリーブ農家グループ)(2018/11/26)

男性農家グループだが、農家から「女性農家とともにツアーに参加したい」との意見が出された。男性と女性が同じ車両に同乗するのは問題ない地域とのことで、1台のバスを手配することとなった。視察ツアーの行き先として、以下に示す優良農家が選定された。兼業農家が多いため、省力化技術への関心が高かった。

- ・ オリーブの剪定技術により収益の安定化を図っている農家(サルフィート県)
- ・ オリーブ栽培の省力化技術を導入している農家(サルフィート県)
- ・ 農業資材の共同購入によりコスト削減をしている農家グループ(トゥルカレム県)

■ Beit Doqo Grape Farmer Extension Group(エルサレム県・ブドウ農家グループ)(2018/11/27)

ブドウ農家は、病害虫防除への関心が高く、病害虫防除技術について優良農家の方法を学ぶとともに、べと病が多発していて課題も明確であるため、普及員からすぐにでも技術研修をしてほしいとの意見が出された。視察ツアーの行き先として、以下に示す優良農家が選定された。

- ・ ブドウの販売促進を行っている農家(ベツレヘム県)
- ・ ブドウの生産技術により収益の安定化を図っている農家(ベツレヘム県)

■ Al-Sawahreh Livestock Extension Group(エルサレム県・畜産農家グループ)(2018/11/28)

視察ツアーの行き先として、以下に示す優良農家が選定された。男性と女性の参加者から、慣習的に、別々の車両でツアーに参加したいとの希望が出された。

- ・ 子羊飼育方法の改善により収益を維持している農家(サルフィート県)
- ・ 羊の飼育技術と乳製品の販売促進を行っている農家グループ(トゥルカレム県)



④ EVAP ウェブガイドライン(eGuidelines)の整備と技術移転(2018/11/27)

プロジェクトでは、EVAP 普及パッケージの普及を促進し、その効果を高める目的で情報技術を活用している。具体的には、サイト①:優良農家の事例紹介サイト(右図)とサイト②:EVAP 普及パッケージのウェブガイドラインを構築中である。将来的にはパレスチナ政府職員



がウェブサーバー上で運営・管理を行っていくため、そのための技術移転として、サイト①の更新作業を担当する普及・地域開発総局マスメディア部担当者を対象に、ウェブ更新手法に関する技術移転を行った。さらに、農業庁 IT 担当者、政府のウェブサーバーを管理する情報通信技術庁担当者と協議し、政府内ウェブサーバーへのファイル・アップロードの手法について協議した。

⑤ Good Practice Farmer(優良農家)の事例発掘と紹介シートの作成

本活動のカウンターパートである農業庁普及・地域開発総局マスメディア部と共同で Good Practice Farmer(優良農家)に対してヒアリングを行った。

■ オリーブ栽培における省力化および剪定による品質向上と生産量安定化の事例(サルフィート県)(2018/11/1)

労力軽減のためにオリーブの電動収穫機と簡易選別器(スクリーナー)を導入している農家を視察した。オリーブ栽培

は生産コストの約40%を収穫コストが占めているとのことで、導入している電動収穫機は1台で3人分の仕事をこなし、小規模農家でもNIS80~100程度でレンタルすることができる機材である。簡易選別器は、収穫したオリーブ果実から枝葉や未熟小果を除去でき、手作業で8時間要するところを1時間で済むとのことであった。

収量の安定化のために剪定を行っている農家の視察も行った。風通しを良くして日光が均一に当たるようにするための混んでいる枝の除去、樹形を整えるための垂直に伸長する樹上部の枝の切断、多くの養分を消費する徒長枝を除き養分を他の枝や果実の生育に分配する、収穫しやすいように高さを抑える、等の剪定方法を実施している。



⑥ 本邦研修の帰国報告会とパレスチナに適用可能な日本の知見や技術の優先順位付け(2018/11/22)

ヨルダン川西岸地区全県の農業局の普及部長および野菜担当職員を招聘して、本邦研修の帰国報告会を開催した。プレゼンテーション資料の作成と発表は、本邦研修に参加した職員が全て行った。視察先ごとに写真や動画も交えて説明を行い、最後に JICA 筑波で実施したラップアップ会議の結果(特にパレスチナの農業普及に応用できそうな知見や技術とその優先順位)を報告し、参加した政府職員と共有した。プロジェクトでは、その結果を踏まえ、日本で得た知見を積極的に活動に反映させていく方針である。

本邦研修参加者が選定したパレスチナの農業普及に応用できそうな日本の知見・技術とその優先順位:

① 日本の農業普及及び職員体制に係る講義(JICA 筑波)

- ・ 普及員と農家の協働での普及活動による農家のモチベーションの向上 (優先順位:1)
- ・ 消費者ニーズに基づく普及活動の実施(優先順位:2)
- ・ 効率性を高めるための共通の課題を持つ農家グループに対する普及と内部・外部機関による普及活動のモニタリングの実施 (優先順位:3)
- ・ 農業技術を開発する農業試験場と普及サービスの連携促進 (優先順位:4)
- ・ GAP や環境保全型農業の推進 (優先順位:5)
- ・ 情報や ICT を積極的に活用した技術普及 (優先順位:6)



② 長野県野菜花き試験場(長野県塩尻市)

- ・ 試験研究課題設定において普及員、農家グループ、ウェブサイト等を通じて農家から直接意見を聞く仕組み(優先順位:1)
- ・ ビニールハウス内の二酸化炭素濃度を人為的に上げることによるトマトの収量と糖度の増加技術 (優先順位:2)
- ・ 紫外線(UV)照射による病害虫防除技術 (優先順位:3)

③ 長野県農政部農業技術課(長野県長野市)

- ・ 若者の就農を促進するための公的な支援制度 (優先順位:1)
- ・ くくりわなや金網等を利用したイノシシ防除技術の導入 (優先順位:2)
- ・ イノシシの通るけもの道の特定制とけもの道へのわなの設置 (優先順位:2)
- ・ イノシシを寄せ付けなくするために収穫後の作物残渣を取り除くよう農家に提案すること (優先順位:2)



④ 有限会社たんぽぽ(長野県長野市)および地域振興と6次産業化に係る講義(JICA 筑波)

- ・ 農業生産(1次)、加工(2次)、販売促進(3次)を掛け合わせた6次産業化のコンセプト導入 (優先順位:1)

⑤ JAグリーン長野 A コープファーマーズ南長野店(長野県長野市)および道の駅しようなん(千葉県柏市)

- ・ 農家による直売の仕組みの導入(農家が自分で小売価格を決めることができる市場の仕組み) (優先順位:1)
- ・ 農家に対する包装技術のトレーニング (優先順位:2)
- ・ 農作物に生産者の情報を記載することによるトレーサビリティと付加価値化 (優先順位:3)
- ・ 農家による市場への出荷方法の改善 (優先順位:4)

⑥ JA 佐久浅間北大井第2 予冷库および佐藤氏のブロッコリー圃場(長野県小諸市)

- ・ 農作物の等級とグレーディングのシステムの文章化 (優先順位:1)

- ・ 折りたたみができる集荷箱の農家による利用（優先順位:2）
- ・ 発砲スチロール箱による農産物の保冷（優先順位:3）
- ⑦ 千葉県東葛飾農業事務所および施設園芸農家(小林氏のトマト圃場、勝矢氏のダイコン圃場と調整場)(千葉県柏市)
 - ・ ナシとリンゴのジョイント栽培技術（優先順位:1）
 - ・ ビニールハウス内の気象条件を計測するセンサー技術（優先順位:2）
- ⑧ 千葉県山武農業事務所(千葉県東金市)、平山氏のネギ圃場・JA 山武郡市成東経済センター(千葉県山武市)
 - ・ 新規採用の普及員に対する人材育成のための研修方法の改善（優先順位:1）
 - ・ 農産物の調理方法や栄養価値を記載したリーフレットを作成することでの付加価値化（優先順位:2）